

活動名	団体名	千羽鶴未来プロジェクト
千羽鶴ファクトリー構想の推進事業	地域	広島県広島市
	代表者	代表理事 重松 まゆみ
	支援金額	25万円

活動概要

広島市平和記念公園に集積する年間約 10 塵(広島市公表)の千羽鶴を使って青少年の平和教育、障害者支援を行うため、広島市周辺の 27 の作業所と連携し、社会実験をはじめました。

*社会実験(障害者が利用する 27 作業所が下請け作業から千羽鶴再生を目的としたメーカーになる為の準備)

期間中、色々な解体方法(大型模型、学校訪問型、グループ受入、作業所内、保護者)を体験していますが、千羽鶴を解体する作業そのものが、障害者に多くの刺激を与えていることになっています。その一番の要因は、小中学生と実施する解体作業にあります。参加する健常者の子ども達には、障害者理解。障害者は子ども達と接することで、服装が変わり、身なりが整い、自分たちの役割をしっかりと理解できる。一度で終わるイベントでは無いので、継続ができれば、それだけ多くの子ども達に、障害者理解を行うことで、イジメの無い社会に近づけることが出来ると考えています。

◆実施時期

通年

◆参加人数

- ①27 作業所 15 名 × 27 作業所 = 405 名
- ②小中学生 クラス(40 名) × 4 校 = 160 名
- ③修学旅行生 1 グループ = 25 名
- ④保護者 20 名 × 27 作業所 = 540 名
- ⑤広島市いくせい会(祭り参加) = 300 名
- ⑥広島JC(ギネスに挑戦イベント) = 300 名
- ⑦各作業所祭り 20 名 × 27 作業所 = 540 名

参加総人員: 2,270 名



青崎小学校への出前学習講座



千羽鶴解体の体験



タペストリーを説明するNPO事務局長



重松理事長からタペストリーを受け取る作業所のスタッフ

◆実施に伴う効果

- ・解体作業の中で新しいものに生まれ変わることにみんな希望を託しているように感じられた。
- ・作業を熟知した仲間が他の仲間をフォローするなど共助の姿勢が広がった。
- ・色とりどりの折鶴を見ることで利用者にも刺激となり、活動の活性化に繋がった。
- ・ほかの作業所との交流が持て、どのように活動・活躍をされているのか知るきっかけとなった。
- ・解体することでグッズ販売の意識も変わってきたように感じる。
- ・生産活動に参加できない方も一緒に作業することができた。
- ・見学者からの注目度が高い。
- ・折鶴についているコメントに、解体する人たちが癒されていた。
- ・再生紙だけでなく他の利用方法をみんなで考えました。
- ・再生紙を既存製品を入れる袋に活用しようという案が現在上がっている。

◆苦労した点

小中学校生との解体作業を中心に、障害者理解を進めるため、広島市観光課と提携した修学旅行生誘致活動に向け活動を始めました。これは、修学旅行生を対象とした平和学習と障害者理解をテーマとした学習プログラムを、広島市が旅行業者に 2013 年 10 月から PR を始めたもので、千羽鶴再生紙を使ったリーフレットを提供しています。修学旅行生の受入は 27 の作業所が出来るよう、現在トレーニング中で、先日貴財団からの支援金で購入した、学習用タペストリーを作業所へ寄贈。早速利用が始まっています。

◆今後の課題・発展の方向性

今後の課題は、タペストリーを使った平和学習が、NPO 以外の作業所スタッフが広島独自の平和学習プログラムを使えるようトレーニングすることにあります。

◆活動を終えての感想・意見等

本格的活動は、今からです。ますますご支援、ご協力を頂きますようお願い致します。現在、他の団体とタイアップした平和学習プログラムの検討に入りました。